

2024 年度 テーマ研究部会「品質」 活動説明会を開催

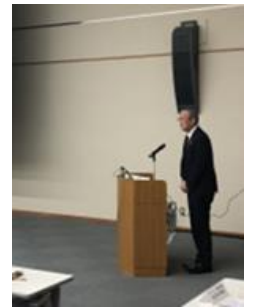
研究活動テーマ:『強靱な現場を実現するための体質改善の実践』

～ 使える・使ってもらえる成果物にする ～

協豊会テーマ研究部会「品質」は、4月16日、トヨタ自動車(株)サプライヤーズセンター大ホールにて、2024年度の活動説明会を開催しました。今年度は昨年の研究テーマを継続するため、昨年からの継続メンバーは Web 参加とし、新規メンバーは会場での参加としました。

当日は、トヨタ自動車(株) 調達技術・プロジェクト推進部 山本室長、協豊会企画委員会の住友ゴム工業(株) 原田企画運営委員長、協豊会の小室事務局長をお迎え、アドバイザーのトヨタ自動車(株) 調達技術・プロジェクト推進部 後藤グループ長、宮川主任及び参加会社115 社117 名が参加し、盛大に執り行いました。

はじめに原田企画運営委員長より、協豊会 2024 年度活動方針である、トヨタ自動車の「幸せの量産」の実現に向けた”想い・考え”を共有し、本音のコミュニケーションと仲間との共感や共通理解を持って、サプライチェーン全体の競争力を強化し、「元気な協豊会をつくろう」について説明があり、その中で、今年度は、協豊会活動に「トヨタ自動車のクルマの未来を変えていこう ～2024年を真のマルチパスウェイ元年としたい」、そして、「未来はみんなでつくる」「継承と進化」「もっといいクルマづくり」を反映させていくとの意気込みを語られました。

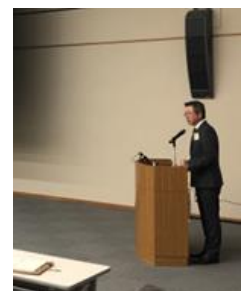


次に、松浦テーマリーダーより、昨年度活動してきた内容紹介と挨拶があり、「ご参加頂いた皆様に感謝申し上げますと共に、この会をぜひ実のある活動にしていきたい。」今年度は、この成果物をSTARTと関連付け、「使える・使ってもらえる成果物にしていきたい」と抱負を語られました。

「自動車業界も100年に一度の変革期の真ただ中で、電動化や自動運転、脱炭素への取組み、品質不正への取組みなど、盤石の強さを誇るトヨタ様でさえ、対応を誤れば足元は危うくなりかねない。お客様の期待に応える「商品・サービスを提供する品質の重要度」は更に高まるものになった。

1月30日に、トヨタグループの進むべき方向を示したビジョンと心構えである、「トヨタグループビジョン」が、豊田章男会長より発表された。トヨタやグループ各社の不祥事を受け、今一度、「原点に立ち戻る」、そして、「多くの人を幸せにするために、もっといいモノをつくること」を達成する為にトヨタビジョンを「次の道を発明しよう」と定義された。このビジョンに向けて我々の協豊会テーマ研究部会「品質」も、未来を創造する研究部会であり続けたい。

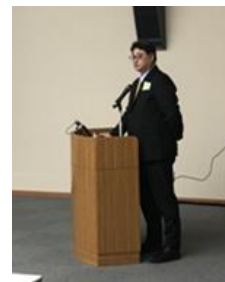
このテーマ研究部会では、START 活動と連携し、各社の仕事の質を高め、製品品質を一層高める、実のある活動にしていこう！」とメンバーへの期待を述べられました。



続いて、トヨタ自動車(株)山本室長より、品質方針の説明があり、START活動による体質強化、SSAによる競争力強化を、「”仕入先・トヨタ一体”での取り組み」にしていくことを、そして、我々が取り組む START との連携に関する内容として、「START活用による挑戦の余力作り・足場固めをして、自社内・サプライチェーン・海外拡大は継続に加え、質向上に取り組んで頂きたい」と皆様にお願ひされました。



次に、渡辺運営委員長より活動内容の説明があり、この研究活動は、「お客様は誰か？どのような価値を提供すれば、お客様は喜ぶか？」を常に考え、その手段として、START 活動と連携をさせて頂くことを再確認し、2年目の活動も引き続きよろしくお願いしたい、とお話がありました。そして、前期の成果物について、「実践・トライを何回も廻すこと」、「過去の成果物を検証すること」、そして、「START と連携すること」で、「使える・使ってもらえる成果物にすること、つまり START 参考書を作成することを目標として、顧客の期待値やKPI向上に貢献できる活動にしていきたい」と意気込みを語りました。



最後に、運営委員より活動組織等を紹介し、研究会の進め方やこれまでより活性化できるよう会議・研究会・報告会を運営していく旨の説明がありました。その後、グループ別会合を行い、新メンバーとの初顔合わせとともにグループ活動の進め方をグループリーダーより説明し、活動説明会は閉会しました。これをもって 2023-2024 年度の2年目の研究活動が始動いたします。メンバー全員が主役となり、活発な討議と学びで有意義な研究活動を進めてまいります。



コミュニケーション第一！ 「明るく・楽しく・元気よく」